

学校だより はなみずき

太田市立藪塚本町南小学校

平成28年1月12日(火)

第13号

3学期がスタートしました

1月7日(木)に平成27年度の第3学期がスタートしました。子どもたちには、冬季休業前の終業式に、「交通事故や事件等に遭わないように十分気をつけて過ごしてください」と話をしましたが、休業日中に事故や事件等に遭ったという連絡は全くなく、全員の子どもたちと再び元気な姿で会えたことが何より嬉しく思います。これも保護者の皆様や地域の方々のご理解とご協力があればこそ感謝申し上げます。

本年もこれまで同様、よろしくお願い申し上げます。



新年並びに3学期の始業式に際して、子どもたちには次のような話をしました。

さて、今日から3学期が始まりますが、この学期はどんな学期でしょうか。3学期の特徴は、期間が短く、登校する日が54日しかありません。6年生は少し早めに卒業式を迎えますから53日です。あっという間に過ぎてしまいますので、一日一日を大切にしてください。

もう一つの特徴は、3学期はそれぞれの学年のしめくくりの学期です。特に6年生は中学校に進学する前の小学校生活最後の学期になります。各学年、一人一人が3学期のめあてや目標をしっかり持って学年のしめくくりをしてほしいと思います。

さて、みなさんは自分の顔を自分の目で直接見たことがありますか…？
私自身、これまで57年間生きてきましたが、未だかつて見たことがありません。^{かがみ}鏡や写真を通して見ることはできますが、直接みることはなかなか難しいものです。誰よりも身近でありながら遠い存在、それが自分なのかもしれません。ここで一つ紹介したい詩があります。

^{こうみょう}
光明

自分の中には
自分の知らない
自分がある
みんなの中には
みんなの知らない
みんながある
みんなえらい
みんな貴い
みんなみんな
天の秘蔵っ子



この詩は、明治から昭和時代に生きた^{あずみとくや}安積得也さんという方の詩です。この詩は、人間の中には自分でさえ気づかない可能性や能力、才能がたくさんあることを教えてくれます。人間には「自分の知らない自分」、言い方をかえれば、少し難しいことばになりますが「未見のわれ」があって、人生とは「未見のわれ」を発見したり創ったりする過程であると言っているように思います。

みなさんは、これまでを振り返ったとき、「自分には能力がない」と自分自身であきらめてしまったことはなかったでしょうか。自分の目で自分の顔、自分の表面さえ見られない自分に、自分の中にある素晴らしいものを見ることなどなかなかできるものではありません。言い方を変えれば、みなさん一人一人、自分の気づいていない素晴らしいものをたくさん持っているのです。

ぜひ、この3学期、そしてこの一年を自分自身の可能性や能力、才能を発見し伸ばせるように精一杯頑張ってください。

最後になりますが、山本有三さんの小説「路傍の石」の一節を紹介します。

たったひとりしかいない自分を、
たった一度しかない一生を、
ほんとうに生かさなかつたら、
人間、うまれてきたかいがないじゃないか。

みなさんも、悔いのないように自分を生かせるような学校生活を送ってください。
みなさんの活躍を期待しています。

